

プログラム番号	07015
---------	-------

平成19年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京大学 大学院工学系研究科		
②学長名	小宮山 宏		
③所在地	〒113-8656 東京都文京区本郷7丁目3番1号		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	工学系研究科国際交流室・助手	
	担当者氏名	千國陽子	e-mailアドレス t-oice@t-adm.t.u -tokyo.ac.jp
	電話・FAX番号	電話(03)5841-6032 FAX(03)5841-6053	
⑤ホームページURL	http://www.t.u-tokyo.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	703人(うち、国費留学生 286人)		

【2. プログラムの概略】

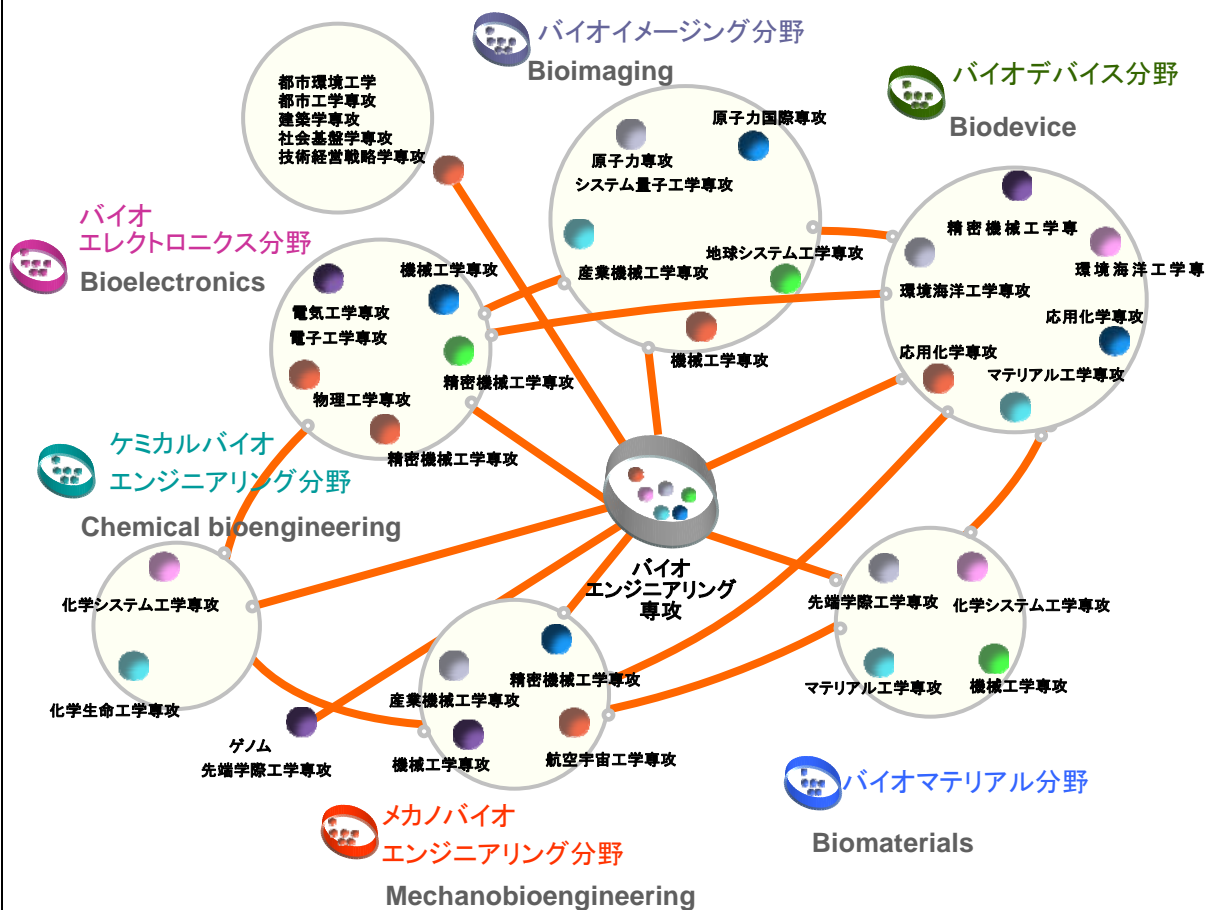
①プログラムの名称	日中韓を中核とするアジア工学環形成のための特別推進プログラム
②プログラムの形態	博士課程(標準で3年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が複数(大学環プログラム 東京-ソウル-北京)
④実施研究科・専攻	工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻(横型専攻)
	(所在地) 東京都文京区本郷7丁目3番1号
⑤連携大学・研究科・専攻名	バイオエンジニアリング専攻を主専攻とする工学系22専攻が協力 工学系22専攻の内訳 バイオエンジニアリング専攻・社会基盤学専攻・建築学専攻・都市工学専攻・機械工学専攻・産業機械工学専攻・精密機械工学専攻・環境海洋工学専攻・航空宇宙工学専攻・電気工学専攻・電子工学専攻・物理工学専攻・システム量子工学専攻・地球システム工学専攻・マテリアル工学専攻・応用化学専攻・化学システム工学専攻・化学生命工学専攻・先端学際工学専攻・原子力国際専攻・技術経営戦略学専攻・原子力専攻
⑥受入れ学生数	12人(うち研究留学生優先配置人数:7人) (うち日本人学生数:0人)
⑦担当教員数	合計 900人(うち専任:463人、兼任:227人、非常勤:210人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工学系研究科・研究科長
	研究科長名 松本 洋一郎

【3. プログラムの内容】

1. プログラムの内容

本プログラムでは、日本－韓国－中国の工学教育拠点を環状に繋ぎ、アジア全体の持続的発展を担う国際人育成を目指す。韓国と中国の最高レベルの教育研究機関であり、首都に位置するソウル国立大学と清華大学が独自に審査した両大学候補者の中から更に東京大学が厳選し、博士課程に受入れる。併せて留学生受入れ領域を単位とする学術シンポジウムを三大学で開催し、学生・教員・専攻（群）間の緊密な交流と、発展的な補完関係を構築する土俵を整備する。東京大学がアジアの工学三極環の形成に先導役を果たし、その環境下での国際人育成を通じて、当該地域の発展と安定に貢献する。

工学系研究科全体の留学生教育プロジェクトである本プログラムの代表幹事として、バイオエンジニアリング専攻がこの任にあたる。当専攻は東京大学大学院工学系研究科の最も新しい学術重点分野であり、突出した特長と研究教育能力を有している。さらに既存専攻の学術・人材も弾力的に動員しつつ、領域を広く横断して新たな学術創成を目指すものである。（下図参照）工学環形成に向けた先陣として、バイオエンジニアリング専攻と専攻群のカバーする学術領域から、留学生を受入れるものとする。



東京大学・工学系-横型バイオエンジニアリングネットワーク

2. 教育指導体制

個々の研究領域に最も適合する専攻に留学生は所属し、研究指導と学位審査は所属専攻が責任を持つ。バイオエンジニアリング専攻（幹事）は留学生が所属する専攻相互の教育研究連携を担い、受入事務や住居、終了後のケア等は工学系研究科国際交流室等が担当する。受入れ対象者は、漢字文化圏外からの留学生に比較すれば日本語環境への障壁は小さいが、優秀な人材確保と研究活動への円滑な移行に鑑み、既設の英語による特別プログラム同様、使用言語は英語を基本とする。現在工学系研究科で英語による講義数は217まで整備されている。また、新設まもないバイオエンジニアリング専攻においても今後3つの英語による講義の開設が予定されており、専攻分野を横断して英語による講義の単位取得が可能である。専門学術教育を開始するにあたっての予備教育等は、本プログラムにおいても不要である。来日後、直ちに正規課程学生としての学術サービスと研究指導体制に組み入れる。当該プログラムに対して、工学系研究科が設置した工学教育推進機構も支援を行なう。

近隣との国際化自体が既に英語を機軸としており、上記のとおり、当該プログラムも英語を基本とする。一方で先端学術のみならず社会文化の相互理解の促進と日常生活の豊かさを図るべく、希望者に初級の日本語教育を用意する。工学系日本語教育と既設の専攻日本語教室は、いずれも「英語環境で学ぶ日本語教育」を提供する点で、我が国において異色の存在である。講義・研究の合間を縫って習得を希望する者は工学系研究科日本語教室へ、午後あるいは夕刻にまとまった時間を取れる留学生には、集中型の専攻単位の日本語教室での修得機会を、アクセントを付けて斡旋する。

3. 募集・選抜方法

本プログラムの主たる対象者である清華大学、ソウル国立大学からの大学院学生については、両大学が学内で応募希望者を募り、学力、将来性などを総合的に審査・選抜する国内での過程を経て、総計で受入予定数の2～3倍の候補者リストを毎年12月に東京大学工学系研究科に送付する。これを受けて研究科長を長とする選考委員会が候補者の適性と研究計画、工学系で提供する専門領域の専攻、研究の準備状況（希望する指導教員との連絡状況も勘案）を判断して、最終的に候補者を確定する。必ずソウル市と北京市（東京大学北京代表処）に教員を派遣して現地面接を実施する。なお、両大学は独自に複数の海外の大学とも連携関係を展開しつつあり、日中韓の工学環拠点形成にあたって、両大学と関連の深い大学等から留学生受入が有効な場合も想定されている。したがって、日本－中国－韓国の3大学ネットワークを基にして若干名ではあるが、非漢字圏からの留学生を本プログラムにおいて受入ることに配慮する。

4. 修了者のフォローアップ

当該留学生プログラムの一体感の醸成を図るために、来日当初にガイダンスを兼ねた短期研修旅行などを企画する。また、修了後も同窓会を通じて修了者のフォローアップを行い、東京大学で学位を得た清華大学、ソウル国立大学の教員に同窓会長をお願いする。継続的な合同セミナーやシンポジウムを通じて、横断型の人的ネットワークを育成していく。中国においては、東京大学北京代表処及び無錫代表処（代表 松本研究科長）をフォローアップの拠点とする。